

阿蘇ジオパーク学習プログラム

1 活動の目的、効果

(1) 体験活動上の効果


◎阿蘇の自然に親しむ ◎阿蘇の文化に親しむ ◎課題克服・達成感

(2) ESD の課題解決に必要な7つの能力・態度

③ 多面的、総合的に考える力

人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的・総合的に考える力

2 活動の詳細

概要 (セールスポイント)	阿蘇の火山や草原について学んだり、防災・減災に関することを学んだりすることをとおして、「自然」と「人々の暮らし」の関係を学ぶことができます。理科や社会、道徳などの深化学習としても活用できます。				
諸条件	実施形態	全行程指導（ジオガイドによる）		提出書類	ミュージアム・ジオパーク・防災学習申込書活動
	必要経費	別記載		所要時間	別記載
	活動場所	別記載		対象・人数	別記載
	時期	通年	下見 不要	天候	内容による（要相談）
準備するもの	青少年交流の家で貸し出し可能な物			団体に準備する物	
	<ul style="list-style-type: none"> 無線機 ピブス 等 			【個人】 <ul style="list-style-type: none"> 帽子 ・手袋（軍手） ・水筒・雨合羽（傘不可） 野外活動に適した服装（長袖・長ズボン） リュックサック ・運動靴 ・タオル（ハンカチ） ティッシュ ・ビニール袋 （必要に応じて） <ul style="list-style-type: none"> 弁当 ・防寒防風着 ・救急用品 【団体】 ・救急用品 ・携帯電話 ・笛 等	
役割分担	青少年交流の家で行うこと			団体引率者が行うこと	
	1) 実施前 <ul style="list-style-type: none"> 団体の受け入れ確認（催行者へ） 受入可否の連絡（申込者へ） 2) 当日 <ul style="list-style-type: none"> 物品の貸し出し 貸出物品の受け取り、参加人数の確認 			1) 実施前 <ul style="list-style-type: none"> 学習の申し込み（交流の家へ） 催行者との詳細協議 2) 当日 <ul style="list-style-type: none"> 貸出物品の受けとり 安全、マナー指導 活動中の人員、健康状態の把握 終了後の物品の返却、参加人数の報告 	



3 活動のふりかえりのポイント

視 点：①「阿蘇ジオパークに関する体験や学びをとおして、感じたこと、考えたこと、気づいたことを共有しあう。」
 ②「阿蘇の自然や歴史とそれを維持している人々の営みが、自分たちの生活とどのように関わっているか考える。」

発問例：①「今日活動した〇〇について、感じたこと、考えたこと、気づいたことを班の中で発表してみよう。」

②「今日活動した〇〇は、私たちの毎日の生活とどのようなかかわりがあるでしょうか。」

4 SDGsで目指す姿

 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>11.4 世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。 阿蘇ジオパークをとおして、阿蘇の自然、文化、人々の営みについて知るとともに、長い年月をかけて維持してきた人々の努力に気づく。 阿蘇での学びから、自分が生活する地域にある自然や文化などについて思いを馳せ、地域社会の一員として、自分にできることを考え行動できる姿。</p>
---	---	--

プログラムの流れ

事前説明 10分

①安全面 ②健康面 ③マナー面等について事前に説明をしましょう。

活動

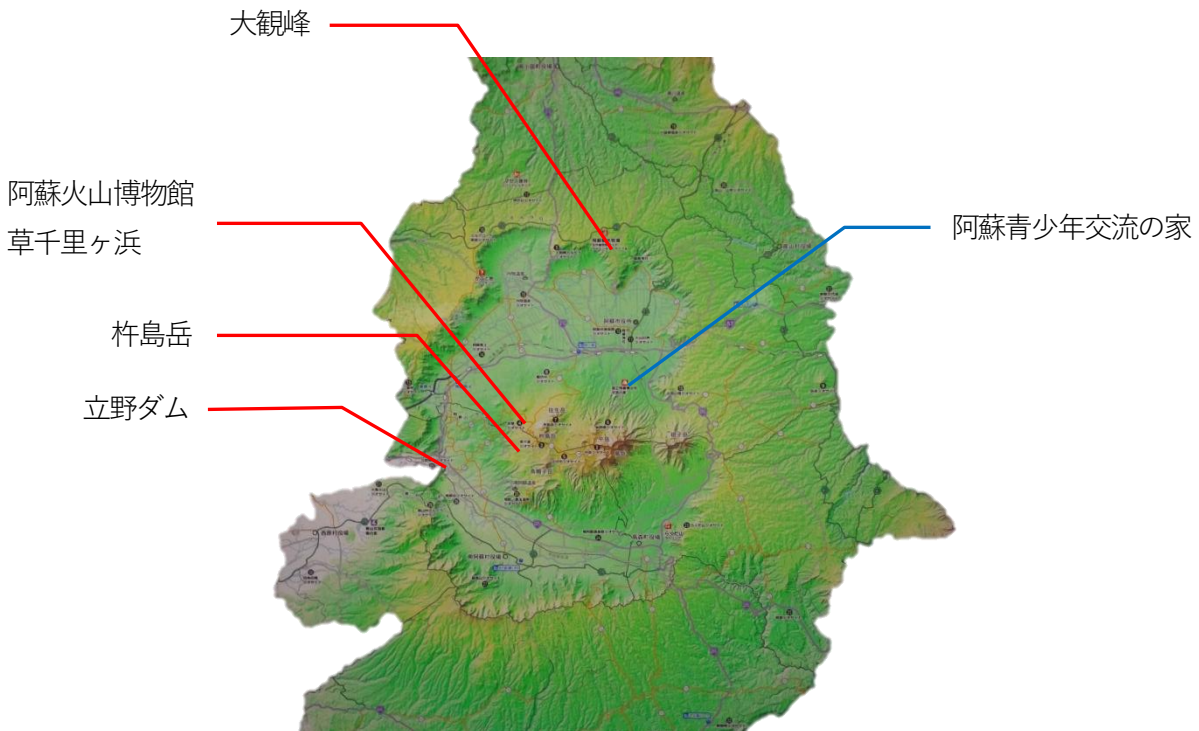
※時間は、実際の活動時間です。移動時間は含みません。

プログラムA	杵島岳ハイキングコース（約1.5時間～）
杵島岳に登ったり、阿蘇火山博物館で火山について学習したりします。	
プログラムB	火山博物館ガイドツアー（約1.5時間～）
阿蘇火山博物館で、阿蘇火山について学習します。	
プログラムC	草千里ヶ浜草原ツアー（約1.5時間～）
草千里ヶ浜を中心として、草原について学びます。	
プログラムD	大観峰草原ツアー（約1.5時間～）
大観峰を中心として、草原について学びます。	
プログラムE	熊本地震に学ぶ防災学習コース（約2時間～）
熊本地震震災遺構を中心に「熊本地震」について学び、防災・減災についての意識を高める学習を行います。	
プログラムF	立野ダム・白川に学ぶ水防災学習コース（約1.5時間～）
立野ダムを中心として、水害への意識付け、防災・減災について学びます。	
※プログラムFについては、2023年秋以降に提供予定	

活動後

人数・健康状態の確認、借用物品の返却

ジオサイトマップ



ジオガイドの活用

活動を行う際、**ジオガイドが引率者に代わって、各コースの解説をします。**

- ①ジオガイドを手配する都合上、このプログラムを希望される場合は、**活動2カ月前までに指導依頼用紙を提出してください。**
- ②ジオガイドが何名配置されるかは、申込団体と実施団体との打ち合わせの際に確認をして下さい。

料金について

- ・各コース、参加者1名につき800円となります。例えば、参加者50名だと、合計40,000円となります。また、A「杵島岳ハイキングコース」、B「火山博物館ガイドコース」、C「草千里ヶ浜草原ツアー」については、別途駐車料金（大型バス1台2000円、マイクロバス1000円、普通車1台500円）が発生します。

移動時間について

各見学地と阿蘇青少年交流の家との移動時間については、

A	
B 杵島岳・火山博物館・草千里ヶ浜	約30分
C	
D 大観峰	約30分
E 新阿蘇大橋近辺	約30分
F 立野ダム近辺	約30分

※各時間は、片道分。交通状況により時間は前後します。

【E】熊本地震に学ぶ防災学習コース（2h）

2016年に発生した熊本地震では、未曾有の2度の震度7の揺れにより大きな被害が発生しました。中でも阿蘇エリアでは地震動による山腹崩壊や地すべりなどの山間地特有の現象により、家屋の倒壊に加えて道路や橋梁等の交通インフラにも甚大な被害が発生しました。

その数千年に一度といわれる直下型の大地震の被害の大きさや教訓を後世に伝えていくため、熊本県内では中核拠点となる体験展示施設の開設および震災遺構の保存を行っています。

本コースでは、その体験展示施設にて地震のメカニズムや被害の全体像を学び、また震災遺構「地表地震断層と倒壊した東海大学1号館」「大規模斜面崩落と崩落した旧阿蘇大橋の橋桁」をご覧いただきながらガイドの案内を受けて、防災・減災への意識を高めていただきます。



体験展示施設のイメージ（2023年7月開館）



体験展示施設のイメージ（2023年7月開館）



ガイドによる案内



地表地震断層



崩落した旧阿蘇大橋の橋桁



大規模斜面崩落

■本コースの見どころ

熊本地震震災ミュージアム 体験展示施設

2023年7月開館の震災ミュージアムの中核拠点施設。大地が動くメカニズムから、熊本地震当時の各地の被災の様子、そして自然と共生するための知恵について学ぶことができます。

旧東海大学阿蘇キャンパス

キャンパス内に想定外に現れた地表表層断層と、被災した鉄筋コンクリート造りの旧1号館を見て、地震による被害の凄まじさを感じることができます。

数鹿流崩之碑展望所

熊本地震で発生した最大級の斜面崩壊。その斜面崩壊の跡、崩落した旧阿蘇大橋の橋桁、そして地震に強い橋となった新阿蘇大橋を見ることができます。

■学習のみちしるべ

次のようなテーマで事前・事後学習を行うことで、熊本地震の理解を深め、地震災害について「自分ごと化」を図ることができます。

- 他の日本の大規模地震（例：阪神・淡路大震災、東日本大震災など）と比較して、熊本地震の特徴をまとめよう
- 自分の住む場所の土地の成り立ち、自然災害の歴史やハザードマップを調べてみよう
- 「生き残るための備え（命を守る備え）」と「生き残った後の備え（避難生活への備え）」について、自分自身ができること、習得しておくべきことを考えてみよう

【実施主体】 一般社団法人みなみあそ観光局（担当：久保）

【実施場所】 熊本地震震災ミュージアム 中核拠点施設周辺（国立阿蘇青少年交流の家より片道30分）

【受入人数】 15～240人（1～6クラス程度）※人数が多い場合はローテーションにて対応

【料 金】 参加者1名につき800円（展示施設入館料、資料代、ガイド代等含む）

【ご連絡先】 TEL: 0967-67-2222 / MAIL: tourdesk@minamiaso.info / FAX: 0967-67-2223